

東日本大震災から2年。事前の対策が命を守る!!

■3月は地震が多い!?

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生しました。地震の規模は観測史上最大となるマグニチュード9.0、宮城県栗原市では最大震度7を記録。死者・行方不明者2万人以上という甚大な被害となった東日本大震災から、今月で2年が経ちます。

また、平成13年3月24日に発生した芸予地震では、西条市においても震度5強を記録し、液状化や多くの家屋被害等に遭いました。近年では同じく3月に、福岡県西方沖地震（平成17年3月30日）、能登半島地震（平成19年3月25日）も発生しています。「もしかして、3月は大地震が起こりやすい?」と思われるかもしれませんが、当然のことながら、3月だから地震が発生するというわけではありません。

ただ、1年間に世界で発生している地震のうち、1割は日本周辺で発生しています。私たちは災害大国に住んでいるということを自覚し、防災対策について考えてみましょう。

■南海地震に備えよう!

南海地震は、四国から紀伊半島沖の海底を震源とする海溝型地震であり、100年から150年周期で繰り返し発生しています。東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震と同じ海溝型地震であるため、巨大な津波が発生すると考えられています。東海・東南海地震と同時、あるいは時間的に隣接して発生する可能性も指摘されており、その規模や被害がさらに大きくなる可能性もあります。

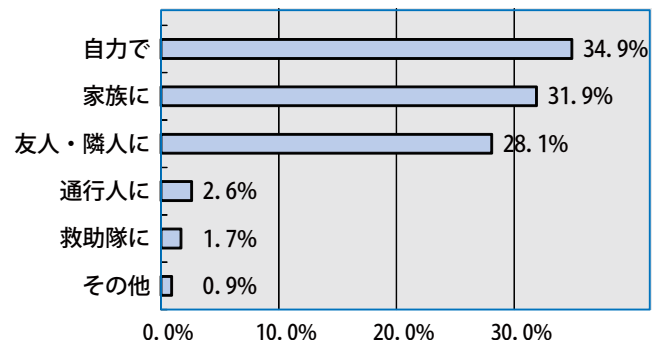
政府の地震調査委員会によると、南海地震が30年以内に発生する確率は、60パーセント程度と推定されています。兵庫県南部地震の発生直前における、同地震と東北地方太平洋沖地震の30年以内の確率は、それぞれ0.02～8パーセント（兵庫）、10～20パーセント（東北）でした。これらのデータを見比べると、「明日、南海地震が発生してもおかしくない」と言っても決して大げさではないと思いませんか。

■「死ぬな!」「逃げろ!」「助けて!」

平成14年3月に県が行った南海地震被害想定では、西条市は震度6弱、さらに昨年8月に国が発表した南海トラフの巨大地震による被害想定では、震度7と想定されています。

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊により生き埋めになったり、建物などに閉じ込められた方のうち、約95パーセントは自力または家族や隣人に救助されています。

「死ぬな」「逃げろ」「助けて」を合言葉に、家具の転倒防止、家屋の耐震化や非常持出品の準備といった、災害から自らを守る“自助”対策はもちろん、お互いに助け合うために、自治会や自主防災組織で行う防災訓練、防災説明会などに積極的に参加する“共助”対策もしっかり行いましょう。



▲「生き埋めや閉じ込められた場合、誰に助けられたか」という問いに対する回答（日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より）



▲阪神・淡路大震災で倒れた書架



▲東日本大震災発生直後の宮城県石巻市の市街地